1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070600558
法人名	株式会社　エルダーサービス
事業所名	グループホーム　牧水の丘
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡東区東鉄町5番20号 (電　話) 093－652－6688

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4－6　北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年10月22日	評価確定日	11月23日

【情報提供票より】(平成19年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	8　人	常勤　8人，非常勤　2人，常勤換算　8．3人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り
	2階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	40,000円		その他の経費 (月額)	(光熱水費) 20,000円
敷　　金	有 (80,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,667円		

(4) 利用者の概要 (10月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	0　名	9	名
要介護1	2	名	要介護2	1	名
要介護3	3	名	要介護4	2	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢　平均	88 歳	最低	81 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たつのおとしごクリニック／新日鐵八幡記念病院／藤崎歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

若山牧水ゆかりの地・八幡東区荒生田公園内の自然に囲まれた静かな環境の中に「グループホーム牧水の丘」は立地している。昔ながらの大きな古い日本家屋を入居者が生活しやすいように全て改造して家庭的な雰囲気が感じられるように造られている。ホームには広い庭があり、周りは木々に囲まれ季節感を感じることができる。近くには「市立美術館」や「到津の森公園」などがあり恵まれた環境を有している。運営理念は「入居者が心から満足することができるように“自分らしさ”の実現に向けて“気づきと思いやり”の精神で支える」とあり、“自分らしさ”の実現と地域の中に溶け込めるように職員が毎日熱心に取り組んでいる。入居者の笑顔からもそれを窺い知ることができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4) 前回の評価の改善は介護計画と災害訓練の記録を残すことであった。介護計画については関係者と勉強会を重ね改善に努めている。災害訓練については防災管理者の資格を取り記録もしっかり残している。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4) 前回の課題の解決に向けて全職員で取り組んで成果を挙げている、
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4，5，6) 運営推進会議には、管理者・ケアマネージャー・地域の代表者・地域包括支援センターの職員・入居者・家族の参加があり、サービスの実際や取り組み状況、行事などについての報告や話し合いを行い、参加メンバーからの意見や要望を聞き、それをサービスの質の向上に活かしている。会議には、多くの家族の参加があり、行政からの情報を伝える機会としても活かしている。なお、会議録を玄関に置き、自由に閲覧できるようにしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7，8) 玄関に「ご提案箱」として意見・苦情などを書いてもらいように設けているが、職員と家族との信頼関係が築かれ、家族より率直な意見や要望をいただいている。それを職員全員で共有し、対応にあたるように努めている。また、昨年、家族会が作られ、1年に1回、会合を開いており、その会での意見も運営に反映するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3) 町内会に加入し、回覧板で得た情報で、地区の公民館の催しに参加している。近くの高校から体育祭や少年剣道大会に招待されて出席した。近隣のボランテアが手芸や生花の指導に定期的に来られ、消防訓練にも近隣住民の協力が得られており、地域と良好な連携が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(□ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者が心から満足できる日本一の介護サービスを提供します」を理念に掲げ、基本方針として「利用者一人ひとりの“自分らしさ”の実現に向けて“気づきと思いやり”の精神で支える」とあり、地域で“自分らしく生活する”ことを支えるケアを実践している。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲げてあり、職員は毎朝のミーティングや定例会に運営理念を唱和している。運営理念を日々の業務の指針にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板で得た情報で、地区の公民館の催しに参加している。近くの高校から体育祭や少年剣道大会に招待されて出席した。近隣のボランティアが手芸や生花の指導に定期的に来られ、消防訓練にも近隣住民の協力が得られており、地域と良好な連携が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、評価結果を活かして改善に取り組んでいる。昨年の改善課題に関して、エルダーグループの別のグループホームと勉強会を重ね改善に取り組んだ。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの実際や取り組み状況、行事などについての報告や話し合いを行い、参加メンバーからの意見や要望を聞き、それをサービスの質の向上に活かしている。会議には、多くの家族の参加があり、行政からの情報を伝える機会としても活かしている。なお、会議録を玄関に置き、自由に閲覧できるようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北九州市の担当課や地域包括支援センターに出向いたり、電話連絡など蜜に連絡をとっている。また、行政主催の研修や勉強会に積極的に参加している。市の事業である家族介護教室など受託している。		
7	10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	管理者は地域福祉権利擁護事業に関するセミナーに参加し、セミナーの内容を職員間で勉強している。エルダーサービスの他のグループホームで権利擁護の利用者がいるので情報交換を行い、必要な人に支援できる体制を整えている。		
4．理念を実践するための体制					
8	14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回家族へお便りをだしている。生活の状況・健康状態・金銭管理の状況を報告している。家族の面会が多く、来られた際にも状況報告を行っている。また、必要に応じて、その都度報告している。		
9	15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご提案箱」を置いているが、職員と家族の信頼関係が築かれ、家族より率直な意見をいただいている。それを職員全員で共有し、対応にあたるように努めている。また、昨年、家族会が作られ、1年に1回、会合を開いており、その会での意見も運営に反映するようにしている。		
10	18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は3ヶ月に1回、管理者が個人面談を行い、じっくり話を聞き改善できるところは改善するなどして離職が抑えられるようにしている。また、職員が変わった場合など、入居者の様子を見ながら、なじみやすい人から対応していくなど工夫している。		
5．人材の育成と支援					
11	19	**○人権の尊重** 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集・採用に当たっては性別や年齢を理由に採用対象から排除していない。また、職員な得意な分野で能力が発揮できるように適材適所の役割を担っており、日々の勤務のマンネリ化を防ぐために最新情報・知識を得る研修に参加できるように配慮している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	入居者の人権に配慮したケアを行うように指導をしている。身体拘束防止・虐待防止のマニュアルがあり、職員間で勉強している。加えて、マニュアルの理解を高めるために、視覚に訴えるイラスト付きの理解しやすい資料を作成している。新採用がある毎に指導している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部の研修に参加させている。また、法人内の研修も計画的に行われ職員のレベルアップを図っている。非常勤の職員も出勤扱いで研修に参加できるようにしている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	エルダーサービスのグループホームが他に3つあり、相互に訪問など交流し勉強会を行い、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。今後は、他の法人が運営するグループホームとの交流を高めることを期待したい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には、まず、家族が見学に来られ、その後、本人が来られる場合が多い。グループホームになじむまでには2～3週間かかるので、それまでは話を聞くことに徹している。また、入居後も、家族からの電話や面会で安心して過ごしていただけるように支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者との会話の機会を多く持ち、入居者の喜びや苦しみを知ることに努め、入居者本人の生活歴などを語っていただき、お互いに学んだり支え合う関係を築いている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話の中から思いや希望を聞いて、本人本位の生活ができるように支援しているが、思いや希望を記録する記録様式がないために記録されていない。	○	特に入居時には家族から、思いや意向など情報も得やすいので、記録に残すことが求められる。日頃の会話や生活から職員がそれぞれ入居者の思いや意向を汲み取っている事を文章化し、それを共通認識できるよう介護計画に反映して欲しい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を第一に考え、ケアマネジャー･スタッフなど関係者でカンファレンスを行い介護計画を立てているが、生活歴や生育歴の情報を活かし、それらを介護計画に反映していくことが求められる。	○	日頃から家族との連携も良く、職員も入居者と多く会話を持ち、意向の把握に努めている。医療機関にも恵まれている状況である。そのような情報からアセスメントを行い、生活歴や生育歴･健康面を反映した、よりその人らしい暮らしができるように介護計画の充実が期待される。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しをしている。状態変化が生じた場合など必要があれば計画の見直し･作成を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美術館や商業施設など近隣には多彩な施設に恵まれ、美術鑑賞や買い物が楽しめる環境にある。職員にも、レクリエーション企画に堪能な人･手芸などが得意な人がおり、うるおいのある日常生活となっている。また、ホームの周りの桜や紅葉など季節感を味わうことができる環境を活かし、四季折々の移ろいが楽しめている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の同意を得た上で、事業所の協力医療機関をかかりつけ医として1週間に1回往診に来てもらっている。かかりつけ医の外科への受診は家族が付きそい、本人のかかりつけ医の受診ができるように支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアの方針を作成しており、医師から家族に話をしてもらい同意を得ている。昨年12月にかかりつけ医や家族の意向をふまえ、終末期まで関わった事例がある。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや言動などは注意を払い、プライバシーを損ねるような対応は行っていない。記録の保管なども気をつけ、個人情報や業務上知り得た事柄は他に漏らすことがないように取り扱いには十分注意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしておらず、一人ひとりのペースを大切にしている。常に入居者の希望を優先したケアが行われるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の事業所の栄養士が献立を立て、ホーム内で調理をしている。入居者一人ひとりの嗜好は把握している。職員も一緒の食卓で食事をしている。後片づけは手伝いが出来る人が一緒に行っている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴は週3回、午後からと決めているが希望があればいつでも入ることが出来るようにしている。また、食事を美味しくいただけるように好みのふりかけを用意し、誕生日にはスポンジケーキを買ってみんなでトッピングするなど楽しむ工夫を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員の働きかけで張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。入居者のできる状況に応じて、掃除・洗濯物畳み・食器の後片づけなど職員と共に行っている。布で草履を組む人、季節毎の壁かけを作る人など暮らしの中で楽しみを見出していただけるように支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日、散歩・ドライブを行っている。季節により情報を集めて、近くの公共施設などに出かけており、外出を楽しんでいただけるように支援している。外出にあたっては、効果や反省点が書かれ、次の外出支援につなげている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。鍵をかけることの弊害は全職員が理解している。入居者が一人で出て行くことはない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルがあり、年に2回、消防訓練を行っている。訓練には町内会長や近隣住民の協力がある。夜間も想定して訓練を行った。消火器の使い方の講習は全職員が受けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分摂取量・食事摂取量は毎日チエックし記録している。栄養士により献立が立てられているので、栄養バランスが取れている。水分摂取は食事の際に必ず一定量飲むように支援している。食事の際に、お茶を飲まない場合は、他の好みの飲み物で補うようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には、季節の花が飾られており、食堂や居間には入居者者同士で談話できるような家具の配置がなされ、壁には入居者の作品が飾られている。日当たりも良く、居間から庭を眺めることができ、庭には様々な木が植えられており、季節感を十分味わうことができる環境となっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室は、全部しつらえが異なり、個性的な部屋となっている。居室には入居者が今まで使っていたベッド・箪笥・仏壇などが持ち込まれ、自分の好みに合わせて配置されている。家族の写真や入居者の写真も飾られ、居心地良く過ごせるように工夫されている。		